

帯広地区の活動報告

帯広地区幹事（帯広市立若葉小学校）

絹川 涼子

帯広では、特別支援教育のスタートをきっかけに、情緒学級が自校方式に向けて設置され、あと2校が設置されると全ての小学校に整うこととなります。中学校でも、毎年2～3校、新設されてきています。

開設することで、自校の児童や生徒にきめ細かく対応できる環境は整ってきたと言えますが、スタートしたばかりで、試行錯誤といった感があります。

帯広市情緒教育研究会（帯情研）は、今年度は、11回程度予定しています。

平成22年度 合同研究テーマ

『一人ひとりの育ちを大切にしたかわりを求めて』

～「遊び」を通して、子どもの「意欲・自発性」の芽を育む指導のあり方～

一学期は、例年横浜ミエ先生に講師をお願いし、「情緒障害教育の基本、子どもの接し方、そして親相談の基本」を研修しています。

二学期は、理論研修や各学級での「遊びや教材」などの実践交流をしているところです。各学級での子どもの実態や状況で、対応も様々で、市内でも違うものだなあと実感しています。学ぶことや感心することが多々あります。

三学期には、帯情研ができてからずっと継続していることですが、「一人一事例」を作成しています。事例交流をしながら、子どもの見方や対応の仕方などを研修しています。事例を書くにあたっては、色々な課題がありますが、「担当として少しでも学んでいきたい、子どもたちに、よりよいかかわり方をしたい。」といった思いで取り組んでいます。

平成23年に予定されている道情研の十勝・帯広大会では、十勝や帯広の実践を具体的にご紹介できる機会をいただきました。

道情研の会員の皆さん、道内の特別支援教育担当の皆さん、通常学級の皆さん、色々な機関の立場の違った皆さんにご参加いただき、ご意見やご感想、そしてご指導・ご助言をぜひいただきたいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

